

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 8 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500281		
法人名	医療法人社団たつき会 菅田医院		
事業所名	グループホームあかね		
所在地	〒737-2518 広島県呉市安浦町内海北6丁目3番20号 TEL 0823-36-5666		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500281-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500281-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46番9号
訪問調査日	平成28年8月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・医療面(同法人、同建物内の有料老人ホームには24時間看護師がいるため)が充実している。</li><li>・多職種との連携。(介護士・看護師・PT・OT・医師・ケアマネージャー等)</li><li>・様々な勉強会の実施。</li></ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームあかね(以下ホーム)は、2ユニットで開設して3年になる。ホームは、サービスセンターすみれ・有料老人ホームつつじ・居宅介護支援事業所さつきと同一建物内にあり、リハビリ機器・行事・特殊浴槽等で連携している。ホーム理念として、「利用者さんの為のケア、明るい環境づくり、向上心と積極性」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流・尊厳ある自立した日常生活を営むことができるように、生活リハビリ遊びやイベント、楽しい外出や外食、その他季節ごとの行事など、共同生活ならではの楽しみがあるように努力している。近隣には、田や畑が点在していて、住宅街もあり穏やかな時間が流れている。近くの幼稚園とは、遊戯や歌の訪問があり交流している。医療連携面でも法人の医師がかかりつけ医であり月2回の往診がある。又、同一建物内に看護師が常駐しており、緊急時にはかかりつけ医と連携を取り支援している。</p>
---

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者さんのためのケア」「明るい環境づくり」「向上心と積極性」という法人理念と業務信念8ヶ条を施設内に掲示し、勉強会や会議では、理念に沿った介護の実践のため話し合い、情報共有している。	法人理念「利用者さんのためのケア」「明るい環境づくり」「向上心と積極性」を事務所に掲示している。又、給与袋に法人理念を印刷しており、毎月給与時に職員が目を通すことになっている。職員会議時に、法人理念について意見を出し合い理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会長との話し合いの機会を設けたり、近隣の幼稚園との交流を行っている。	町内会に参加しており、年2回の清掃や町内会の消防訓練に参加し交流している。消防団との連携や災害時の対応について町内会長と話し合いができています。近隣の幼稚園に職員がサンタクロースになって訪問し、園児が歌の披露に事業所を訪問し交流している。町内会より近くの神社での行事(神楽)にお誘いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で様々な議題をあげ、地域住民の方、入居者家族様に情報発信し、認知症の人の理解をしていただくよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、活動報告や行事予定、利用者状況等について説明し意見交換を行い、いただいた意見やアドバイスを施設内会議で伝達・共有してサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回実施し、家族・地域包括支援センター・呉市福祉保健課・統括・管理者・看護師・自治会長・幼稚園等の参加があり、活動報告や行事予定・利用者状況等の説明を行い、家族からの活発な意見や提案がありそこでの意見を検討しサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市介護保険課、川尻・安浦地域包括センターと運営推進会議で話し合ったり、日頃から、わからないことは呉市介護保険課に電話等で連絡相談している。	運営推進会議に呉市福祉保健課・地域包括支援センターの担当者との出席があり、事業所の取り組みの報告・利用者状況等把握しており、意見・要望等伝え協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、職員同士の声掛けや勉強会等で、身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、全職員が「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく、完全に理解してはいない。今後、更に理解を深めるために、内部研修や勉強会が必要。	グループホーム出口には電子錠がかかっているが、徘徊や不穏で外出を希望される方には、職員と一緒に外出する等対応している。1年に1回は、全職員が身体拘束について内部研修・外部研修を受け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会や会議で話し合ったり、外部研修に参加した職員が施設内で伝達講習を行い、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。		

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員個人が、説明文を読む等の学習程度。スタッフ室に制度に関する説明を掲示して、いつでも閲覧できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解除の際は、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から、利用者家族と意見の言いやすい関係作りに努め、家族会や家族参加の行事の際や来訪時、運営推進会議の前後には意見を聞くようにしている。	家族の面会時や電話での連絡時・運営推進会議での意見交換会での要望・苦情等聞き取り、職員会議で検討しそれらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	「ありかたBOX」「理事長BOX」という意見箱を設置したり、ミーティングで意見を聞く機会を設けている。出された意見や提案は、管理者、運営者と検討し、必ず回答し職員の意見を運営に反映させている。	管理者は毎朝の職員ミーティングの他、日々の業務中や月1回の会議又は、「ありかたBOX」「理事長BOX」という意見箱で意見を吸い上げ、出された意見や提案は会議で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が個人面談を年2回行い、職員個人が抱えている悩みや意見を聞く機会を設け、勤務状況を把握し、目標管理シートを使用し個人の目標を設定して、向上心を持って働けるよう就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の接遇マナー研修を受ける機会を確保し、職員も勤務時間外の勉強会や研修会に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所とも様々なネットワークを利用して交流する機会をつくり、情報交換しサービスの質の向上に努めている。		

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	できるだけ多くコミュニケーションをとり、しっかり意見を聞いて、情報収集している。とくに、不安なことや要望は職員間で情報共有して対策を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族面会時に積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい環境を整え、要望等の情報収集に努め、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前に、しっかりと話し合い、本人や家族の状態・状況を把握して、意向を確認して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段からの生活・ケアの場面で、信頼関係が築けるような声かけ、対応を心掛けている。また、利用者一人一人に無理のない範囲でできることをしていただき、職員と一緒に作業しながら対話の時間をもっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族面会時には本人の近況報告をして、家族からは気になること、不安に思うことなど、小さなことでも話していただき、職員と対応を考え、共に支えていくという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人・家族希望の外出を制限を設けず対応し、本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう、本人との日常会話や、家族からの情報を得て支援している。	利用者は町内の方も多く、デイサービスに來られた知人と会話され、以前からの顔馴染みの方との交流を継続している。家族がお墓参りに連れて行かれたり、近隣のスーパーに買い物に行き、近所の馴染みの方と会話する機会を作り馴染みの人や場所との関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや生活の場で、入居者同士が会話できるよう、職員がテーブルの席順に配慮したり、交流の援助を行い、良好な関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、気軽に相談できる体制を整え、実際に、退去した利用者家族からの相談を受け、支援することができている。		

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、カンファレンスで、暮らし方の希望を聞き、本人の思いや意向を把握し、ケアプランを作成している。日々の関わりの中で、本人の表情やしぐさからも、思いを汲み取るように心掛けている。	利用者と日々の生活の何気ない会話の中、1対1で職員がお話する時間を大切に、お一人おひとりの希望・意向・思いを把握し、職員間で情報共有してケアに反映させていくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に取得した基本情報・フェースシート等で、サービス利用の経過をしている。入居後は生活歴を多く話題にして、本人・家族から情報収集し、理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の日々の生活、心身の状態等、職員が個人記録に記入し申し送り、職員全体で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスや会議等で、チームとして話し合う機会を設け、入居者・家族の意見を尊重して計画を作成している。	介護計画作成担当者が職員から状況を聞き、本人・家族からの希望や意見を聞き、カンファレンスや会議等で話し合い作成している。利用者の心身の状態に変化があった場合は、随時検討しその都度見直すと共に家族等に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づき、特変があれば、個別記録に記入し職員間で、情報共有、その後のカンファレンスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	変化があれば、その都度対応している。ケアマネ・OT・PT、看護師等と協力してニーズに対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域生活の継続を目的とし、近隣住民や地域包括支援センター等に必要な連絡相談を行い、緊急時の連絡体制を整えている。しっかりと入居者一人一人の情報を把握し、カンファレンスを開き、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診や、入居者の状態や希望により適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に本人・家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。御希望のない方には、法人の医師がかかりつけ医として月2回の往診によって適切な医療を受けられるように支援している。状態の変化があった場合は同一建物内に看護師が常駐して居て24時間適切な医療を受けられるようかかりつけ医と連携が取れている。	

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	GH内で何か事故、急変等あれば同法人同建物内の有料老人ホーム勤務看護師に連絡する。また、介護職員で、わからないことがあれば看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院等の連携者を通して、入退院時にかかる相談や手続きを行い、入居者や家族が安心して治療できるよう、情報交換ができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族とのカンファレンスを行い、本人と家族の意思が最大限尊重されるように努める。	入居時に本人・家族の希望・意向を確認し、施設で出来る事出来ない事を説明し、重度化した場合、状況に応じた検討を重ねながら看取り支援に取り組んでいる。今年度11月に「看取りについて」の職員研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ヒヤリハット事例や事故報告等で、緊急時及び事故発生時の対応及び連絡経路の確認を行っている。勉強会の実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力指導により避難訓練を行っている。勉強会の実施。自治会との連携体制をとっている。	年2回消防署・セコム立会いのもと利用者も参加して、日中と夜間想定での避難訓練や消火器の使い方訓練を実施している。町内会の消防訓練に職員が参加し地域との協力体制を築いている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴時、排泄時等、入居者の意見(同性対応)等あれば、プライバシーを尊重して対応している。	お一人おひとりの性格や生活歴を把握し、個々に応じた言葉かけや対応をしている。トイレへの誘導・排泄時における羞恥心に配慮したさりげない言葉かけ、排泄時に扉を開けっぱなしにしない事や個々を尊重した細やかな配慮をしながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めるのではなく、入居者が自己決定しやすいように声かけ・対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事等は、できるだけ決められた時間にとっていただくように促しつつ、入居者の意見を尊重した生活ペースを大切にしている。		

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時には着たい衣服を着ていただき、整容は、本人の希望を聞き対応している。希望者には訪問美容を利用していただく等、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の量やパンの提供等、入居者の希望を聞き対応している。食事の準備も、職員と入居者が一緒に行っている。	厨房で出来た食事を職員と利用者と一緒に盛り付けを行い配膳している。テーブル拭きや後片付などは出来る方に積極的に参加してもらっている。食事介助の方も、言葉かけをして楽しく食事が出来る様に支援している。個々の利用者の要望で食べたいものを外部から取り寄せて支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	時間を決めて水分を提供している(脱水予防)。入居者の飲みたいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。磨き残しがある入居者には、仕上げ介助を行うようにしている。必要であれば訪問歯科に連絡し、往診を依頼する援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	大きなパットは使用しないようにしている。本人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレ誘導を行い、オムツの使用を控えるようにしている。	排泄チェック表でパターン・習慣を把握し、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄を支援し、現在の排泄状態を低下させないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄管理表で排便を管理し、便秘予防は服薬で対応している。こまめな水分補給を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の希望を聞き、午前・午後どちらにも対応して、入浴を嫌がる方には無理強いをせず支援している。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、清拭等で対応している。	入浴は週2回を基本として実施している。毎日入浴を希望する方はいないが、拒否のある方には時間をかけて無理強いをせず支援している。又、排泄・体調不良等での対応は、シャワー浴・清拭・足浴・機械浴等で個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者へ声かけは、職員からは行わず、できるだけ入居者の生活ペースに合わせている。気持ちよく眠っていただくために、夜間の巡視や体調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬について、わからないことは薬情報を見たり、看護師に確認している。また、誤薬がないように、服薬時には声をかけあいチェックしている。		

グループホームあかね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	フロア、居室では本人の過ごしたいように生活している。趣味や特技を活かして、出来ることを無理のないように行なっていたり、喜びや満足感を感じられるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人、家族からの希望があれば、制限なく対応している。お花見や紅葉狩り等、家族の支援をいただきながら、季節に応じて戸外に外出する行事を行っている。	利用者の体調や天気等を見て近くを散歩したり、スーパーに買い物に出かけたりしている。ドライブでグリーンピア安浦・安浦駅等に出かけている。幼稚園の運動会を見に行ったり、神社の祭りに出かけていたりしている。	外出の年間行事計画を作成し花見・紅葉狩り・夏祭り・運動会等に積極的に取り組まれる事を期待します。又、なかなか利用者全員参加というのは難しいと思われませんが、家族や地域の人々の協力を得て、出かける機会を増やされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の希望があれば、金銭の自己管理をいただいている。現在1人。(自動販売機を利用する程度の小銭。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話があれば、制限なく対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快や混乱をまねく刺激になるような物は置かないようにしている。貼り絵等の壁画も季節にあったものを作成し、飾るようにしている。	居間兼食堂は明るく、テーブルには季節の花が活けられ、壁には利用者が作った季節感のある貼り絵や折り紙が飾られている。又、室内は温度管理が出来ていて、空気清浄機・加湿器が備えられており、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者がいれば、席を近くにしたり、状況を見て対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドの配置等、本人と相談して決めている。また、本人からの希望があれば、その都度、配置換えを行っている。	居室には電動ベッド・エアコン・照明が備えられている。利用者は自宅から筆筒・衣装ケース・テレビ・テーブル・椅子・家族の写真等、馴染みの物・使い慣れた物を持ち込み本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	Pバーの使用やPTイレの使用等、安全に生活していただけのような環境作りを行うようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームあかね

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあかね

作成日 平成 28 年 8 月 12 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援	買い物や地域周辺の散歩や外出の機会を増やす。	時間の有効活用。	3ヶ月～6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。